

少年センター **だより**

守山野洲少年センター

相談は ☎ 583-7474 まで

『あずくる守山野洲』

<http://www.usennet.ne.jp/~syonen-c/>

平成31年、新しい年が始まりました。日々の生活の中で、新しいことをスタートさせるきっかけとなる、色々な節目（タイミング）があります。例えば「明日から〇〇しよう」「ご飯食べたら〇〇をはじめよう」のように。「新年のスタート」「新学期のスタート」であるこの時期は、そんな節目の中でも特に大きなタイミングではないでしょうか。ぜひこの機会に、新しい何かにチャレンジしてみてください。

ぜひこの機会に学んでほしいこと

年末年始、お年玉などでお金をいただいたり、ものをいただくことが多かったと思います。お金やものの大切さについて考えることを通して、多くのことを学ぶ機会にしてほしいと思います。

・感謝の気持ちを持つこと

・お礼の気持ちを伝えられること

・いただいたものをきちんと管理できること

・お金の計画的な使い方ができること
(我慢できることも大切)

おうちの人と一緒に

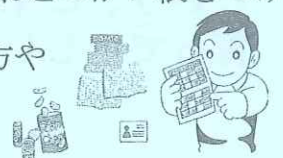
○おこづかいの額を決めよう

○「おこづかい帳」をつけてみよう

○欲しいものリストを作ってみよう

～保護者のみなさまへ～

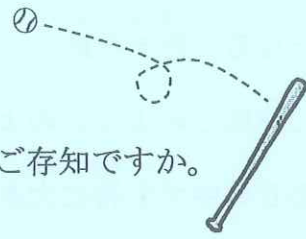
大切なお金について勉強する機会はいへん少なく、お金のことは学校で習うことも大事ですが、家庭での教育が重要です。おこづかいのあげ方は家庭によって色々あると思いますが、例えばおこづかいを活用して、子どもにお金の使い方を教えてはどうでしょう。おこづかい帳をつけることによって、決まった額を計画的に使うことができ、お金の有効な使い方やお金の大切さを知ることができます。



自分で自分のことができる

むかしむかし、お正月やお祭り、田植えや秋の取り入れが終わった時に、すき焼きや巻き寿司・ちらし寿司などを特別に作って、家族と一緒に食べたということを祖父母やご両親にお聞きになった方はいらっしゃるでしょうか。

この“特別な日の特別な食事”が最近では“外食”に変わり、今や“特別な日”がたくさんある生活となりつつあるのではないのでしょうか。



野球選手でアメリカ大リーグのエンゼルスに所属する大谷翔平選手をご存知ですか。新人賞を得た、今まさに時の人として話題の選手です。

彼が先日、テレビインタビューの中で、食生活について尋ねられたときに、「普段は球団が準備している食事を食べています。外食はたまにしかしません」と話していました。

彼が育った環境では家族団らんのなか、準備していただいたものは、ありがたくいただくという習慣だったのでしょね。



また、こんな話を聞いたことがあります。

日本サッカー協会では、日韓ワールドカップ以降、12歳以下(U-12)までに、よい選手を育てるというプロジェクトが開始されたそうです。この「よい選手」とは、「自立した人格を持つ子ども」であり、2003年6月にキッズプロジェクトがスタートしています。現在プロとして活躍しているある選手たちは、小さい頃から子どもなりに技術的にも人格的にも育っていたそうです。

彼らは、幼い頃から試合前の夜には、枕元にユニフォームをきちんとたたんで準備をして翌日に備えていたといひます。

つまり、自分なりに自分の出来ることは、しっかりと自分の力ですという習慣を身につけていたのです。そうした選手が、今、世界で活躍する選手として羽ばたいています。

- 準備していただいたものを“ありがたく”思う感謝の気持ちを持つ
 - 自分で出来ることは自分の力です
- という、ごく当たり前のことのできる子どもに、毎日の生活を通して育ててほしいと願うのですが、皆様はどの様にお考えでしょうか。

子どもたちの下校と交通安全



子どもにとって学校帰りは、最高の楽しみのひと時ですね。昔と異なり寄り道をせずまっすぐ帰宅しますが、それでも少しずつ話をしながら帰るのがとっても楽しいのです。

ある日、数人の低学年と思われるグループが歩道を歩いて下校していました。すると、児童の中の一人が道路の縁石の上を歩き始めたのです。

見ていると、これがまた楽しそうなのです。友だちと話しながらバランスを取りつつ、細く狭い縁石上を歩いています。

そこへ、後ろから車が接近してきました。警笛はありません。地元の人でしょうか、車はスピードを落とし、縁石からできるだけ遠ざかりながら子どもたちを追い越して行きました。さすがは通学路、運転手さんの配慮がちゃんとありました。

でも、もしも何も考えずに「ここは車道だ」とばかりに走る自動車であればどうなることでしょうか。また、交通量の多い道路だったらどうでしょう。

子どもの楽しみではありますが、バランスを取りながら歩くということは、やはり、注意をすることが必要かもしれません。

しかし、こうした普段の生活から子どもたちはいろんな能力を身につけ、力を伸ばしていきます。

学校生活での学びや家庭生活だけでは身につかないことも、子どもたちの遊びの中にはあるのです。でもこの一件、普通は学校であれば「危ないからやめなさい」と言って止めるでしょう。また子どもたちの姿を学校へ通報する地域の住民がいらっしゃるのかもしれませんが。

注意はするべきですが、未来を担う子どもたちが生まれ育つ地域であるからこそ、温かく見守りたいとも思うのですが……。

**「危ないよ。気をつけて。」と毎日事故がないように見守って
いただいている地域の皆様 ありがとうございます。**

守山野洲少年補導委員会の活動報告

少年補導委員は、守山 50 名、野洲 40 名が街頭巡回や登下校時の見守り、相談活動、地域や関係機関との情報交換等をおこない、地域の青少年の非行防止に努め、健全育成をはかることを目的として日々活動しています。

子どもたちを薬物の危険から守るため、両市内小学校の6年生を対象に、守山警察署指導のもと、薬物乱用防止教室を開催し、寸劇や〇×クイズ、シンナー液を使った実験を通して薬物の恐ろしさを話しています。

また、両市内の中学生とともに駅周辺や大型店舗などで青少年健全育成の啓発活動に取り組んでいます。



▲薬物乱用防止教室



▲中学生との啓発活動

昨年の11月16日(金)に管外研修として滋賀県立淡海学園を訪問しました。

淡海学園は、児童福祉法により県が設置している児童福祉施設で、家庭寮形式の寮舎で職員が児童と起居をともにしながら情緒の安定を基盤として指導にあたっています。

児童の多くは家庭や学校で問題があつてうまく適応できないことから、恵まれた自然環境を活かした作業活動やスポーツを中心としたクラブ活動を通して精神力と体力をつけるとともに、施設内に併設された地元小・中学校の分教室で学力に応じた教科学習により将来社会に適応貢献できるよう支援を受けています。

質疑応答も活発に行われ、たいへん有意義な研修となりました。



▲淡海学園にて

～研修参加者の感想～

淡海学園の取り組みを職員の方から丁寧に分かりやすく説明していただき勉強になりました。学園では4本の柱として、生活・作業・学習・クラブと、家庭寮形式で夫婦職員が子どもたちと一緒に生活に携わっているとのこと。子どもたちは5つのクラスに分かれて学習しています。子どもたちの能力に応じ、授業を通し頑張っているとのこと。職員の方々が努力されている様子が目に浮かびます。本当にたいへんな仕事だと思い、今回は大いに勉強させていただき、今後の活動に役立たせます。ありがとうございました。

補導委員として日々活動していると、色々なタイプの子どもの目にします。今回の管外研修は、以前から名前だけ知っている施設の訪問でしたので参加することにしました。

施設内で職員の説明を聞いたりした結果、青少年の健全育成には親の愛情と躾、それに地域社会の見守り活動が大切な事が判りました。

私も今回の研修を参考にして、以後の活動に生かしたいと思います。

守山野洲少年センター 「あすくる守山野洲」

〒524-0021 守山市吉身3丁目11番43号 守山市商工会館3階

TEL : 077-583-7474 / 077-570-7557 FAX : 077-581-1419

<http://www.usennet.ne.jp/~syonen-c>



月曜日 - 金曜日 8:30 - 17:15

(土・日・祝日・年末年始は休み)

相談無料・秘密厳守

カウンセリングは要予約(火・水・金)